

第19回(2016年度第4回) 極限宇宙研究拠点 (CORE-U) セミナー

日時：2016年06月24日（金） 16：00～17:00

場所：広島大学 理学研究科 E203教室

渡部潤一氏（国立天文台天文情報センター）

「幻の流星群を追って」

1956年12月5日、第一次南極越冬隊をのせて南極に向かっていた「宗谷」が、インド洋上で突然の流星雨に遭遇した。明るい流星が一時間に500個も出現し、その放射点（流星が四方八方に飛び出すように見える天球上で点）の位置から「ほうおう座流星群」と命名された。だが不思議なことに謎だらけであった。その後はほとんど出現しなかったばかりか、流星群の母親である彗星も1819年に一度だけ姿を見せた周期5.1年のブランペイン彗星らしいとされていたが、この彗星さえも行方不明であった。こうして“幻”の流星群となった。

2005年、地球近傍小惑星2003WY25の発見が、その“幻”の理由を解く鍵になった。われわれは最新のダスト・トレイル理論の計算によって、1956年の大出現の理由、その後、出現しなくなった理由を明らかにし、さらには2014年には出現条件が良いことを見いだした。出現のピーク予測時刻は午前8時から10時（日本時）と、日本では昼間だったため、観察可能なスペイン・カナリー諸島とアメリカ東海岸とに遠征隊を送った。果たして、幻の流星群は出現するのか。

本研究の結果と彗星の物理的進化を知る上での意義を紹介する。

「広島大学 極限宇宙研究拠点 (Core-U) セミナー」世話人

志垣賢太、水野恒史、両角卓也

問合せ先：Tel: 082-424-7379、e-mail: mizuno@hep01.hepl.hiroshima-u.ac.jp